

KN グローカルリサーチレポート

2021年5月
No.61



今年も東京や大阪などが緊急事態宣言となり、コロナ禍でのゴールデンウィークとなりました。子どもの成長を祝う「浜松まつり」も縮小開催となりました。感染予防の工夫をして、五月の春を過ごしたいと思います。

【新茶】

JA 静岡経済連によりますと、今年の新茶の摘採開始は、平年並みだった昨年より 7～10 日早く、摘採盛期は、牧之原や掛川地域は 4 月 18 日～26 日、川根や静清の山間地域は 4 月 26 日～5 月 4 日頃とのことです。

JA 遠州中央（袋井市、磐田市、浜松市天竜区、森町）では、「2 月 3 月は特別な冷え込みも無く、過去にないくらい順調に生育が進んでいる。凍霜害の影響も無く、周期的な降雨もあり、良質な茶生産に期待が持てる。」とし、JA 遠州夢咲（牧ノ原台地一帯の菊川市、掛川市、御前崎市）は「気温が高めに推移した事と、降雨もほどほどにあり順調に生育している。生育が例年以上に早いため、短期集中になる事が予想される。製品としては良い茶が作られると思う」とコメントしています。

取引価格を見ると、4 月 28 日の市況は、静岡茶市場では、例えば、磐田産は 1,800 円～1,050 円 / Kg、静岡市玉川産は 4,100～2,100 円となっており、JA 遠州夢咲では、20 工場からの 17.9t を 2,100～1,180 / Kg 円で扱い、「一番茶の生産も終了間近」とのことです。

お茶屋さんの店頭にも新茶が並びはじめました。ゴールデンウィーク、近郊のお茶畑にドライブに行かれてはどうでしょうか。



【1億円キャッシュバックキャンペーン】

浜松市内の飲食店への来店需要を喚起する「1 億円キャッシュバック」の第二弾が開催中（4 月 12 日～5 月 11 日）です。



[キャッシュバック詳細](#)

3 月の第一弾では 67,058 件・3 億 8,500 万円の応募があり、当選は 4,200 件・2,557 万円と（当選倍率は約 16 倍）になりました。対象となる『はままつ安全・安心な飲食店』認証店舗は約 850 店舗となっています。ご家族または 4 人以下の少人数での会食でご活用下さい。



[認証店舗](#)

子どもの未来サポートプロジェクト

浜松市子育て支援課では、『子どもの未来サポートプロジェクト（浜松市子どもの貧困対策計画）（案）』を策定し、5 月 14 日まで、パブリックコメント（市民からの意見募集）を行っている。

子どもの未来サポートプロジェクト(浜松市子どもの貧困対策計画)(案)

【目的・趣旨】

現在から将来にわたり、全ての子どもが生まれ育った環境に左右されることなく、夢や希望を持てる社会を目指すための施策を、浜松市で推進する

【背景】

令和元年に国で「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が改正され、新たな「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定された。ことに伴い改正内容を踏まえて、浜松市においても「子どもの未来サポートプロジェクト」を改定する。(前計画は、平成29年3月に策定済み)

【施策展開の方針】

- ＜視点1＞親から子どもへの、貧困の世代間連鎖を防止する
- ＜視点2＞親の妊娠期から子どもの社会的自立まで、切れ目ない支援体制を構築する
- ＜視点3＞支援が届きにくい子ども、家庭に配慮した対策を講じる

【支援の分野】

- ＜分野1＞子どもに関する支援
 - ・子どもの社会的自立に向けた「生きる力」の育成
- ＜分野2＞保護者(家庭)に関する支援
 - ・生活基盤の安定に向けた保護者への経済・就労・子育て支援
- ＜分野3＞支援体制作りに関する支援
 - ・行政・地域・関係機関等の連携による子ども支援体制の構築



この計画を策定するに当たり、浜松市では、令和2年9月に、小学5年生と中学2年生の子どもと保護者6,000世帯にアンケート調査を行っている。

[アンケート調査](#)



有効回答数約2,800世帯の分析結果を見ると、国の「国民生活基礎調査」の世帯所得の数値を基準とした「生活困窮世帯」は全体の8.6%で、「生活困窮予備世帯」は13.8%となり、合わせて約1/4と推計される。また、この調査では、浜松市内の「一人親世帯」は全体の10.6%で、そのうち「生活困窮世帯」は41.7%、「生活困窮予備世帯」は24.3%と推計される。

困窮する家庭の子どもほど「健康である」と回答する割合が低く、病気やけが等で体調が悪い際に、通院や投薬をせずに「何もしないことが多い」と答える割合が、一般群の子どもに比べ高くなっている。生活習慣では、「就寝時間の遅さ」、「遅刻の経験」などが、困窮する家庭の子どもほど目立ち、「朝食の欠食の多さ」や「給食以外で野菜や果物を食べる機会が少ない」など、食育面での課題も見られる。

最近のコロナ禍において「K字型経済」という言葉を聞くようになってきた。昨今の経済状況は製造業については景況感が出て上向いているが、非製造業は業績が悪化し下向きである。また、高所得者層は安定雇用などに支えられ購買意欲が高く、中低所得者層は収入減などで購入を控えたり資産を売却したりしている。つまり格差が拡大してきている。

「子どもの日」を機会に、日本の将来を担う子ども達の今後に思いを寄せ、今、私たち大人が出来る事を考えてみたい。

執筆 = 西川公一郎：元浜松市議会議員、防災士

浜松市南区 在住 ko-ichi@24kawa.org